

## 正誤表

本書 p. 44~55 (「屋久島」) に掲載した以下の写真の説明に、撮影者のお名前が欠落しておりました。撮影者およびご関係の皆様、読者のみなさまにはにお詫び申し上げ、以下の通り撮影者名(太字部分)を追記いたします。 文一総合出版 編集部

### ■ 46 ページ

照葉樹林から海を見下ろす(灯台は永田灯台) (撮影/金谷整一)

シャクナンガンピ。森林限界を越えた高地で見られる。ジンチョウゲのなかまで、花は香りが高い (撮影/金谷整一)

カンツワブキ。屋久島と種子島に固有。ツワブキより小型で、葉に光沢がない (撮影/金谷整一)

コケスミレ。固有変種で、湿地帯のミズゴケの中に生える。花の大きさが1 cm 弱の、小さな小さなスミレ (撮影/田金秀一郎)

オニカンアオイ。標高900 m 付近の、沢沿いでやや湿ったところに生える。花は初冬に咲く (撮影/田金秀一郎)

### ■ 47 ページ

ヤクスギランドのスギ林 (撮影/金谷整一)

胸高周囲13.8 m, 屋久島最大の切り株・ウィルソン株のなかからスギの若木を見上げる (撮影/谷尚樹)

スギの分布限界 (撮影/谷尚樹)

### ■ 48 ページ

西部地域の照葉樹林を流れる瀬切川 (撮影/金谷整一)

落差60 m, 鯛ノ川にある千尋滝(せんびろのたき) (撮影/金谷整一)

### ■ 49 ページ

標高1600 mにある日本最南端の高層湿原、小花之江河(こはなのえこう) (撮影/吉丸博志)

屋久島の奥岳。左から永田岳(1886 m)、宮之浦岳(1936 m)、栗生岳(1867 m) (撮影/金谷整一)

千尋滝の花崗岩 (撮影/吉丸博志)

### ■ 52 ページ

積雪の奥岳。標高の高い山の存在が、多様な森林の要因のひとつ (撮影/金谷整一)

西部地域にある標高1323 mの国割岳 (撮影/金谷整一)

1966年に発見された屋久島最大のスギ・縄文杉 (撮影/手塚賢至)

淀川(よどこう)の清流 (撮影/吉丸博志)

### ■ 53 ページ

寄生植物の一種、ヤッコソウ (撮影/金谷整一)

### ■ 54 ページ

④ 栗生のメヒルギ (撮影/吉丸博志)

① 倒木更新。倒れた木の上に次世代が育っている (撮影/高橋友和)

### ■ 55 ページ

③ ヤクタネゴヨウに絡む「絞め殺し植物」のアコウ (撮影/金谷整一)

⑧ 溪流沿い植物のひとつ、ホソバハグマ。増水すると水に洗われる岩の上に生える (撮影/金谷整一)